RV pocket Ⅱ

取扱説明書

RV pocket Ⅱを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管して下さい。

RV pocket Ⅱ の特長

●姿勢保持機能が向上
- より細かい対応がしやすくなった背座張調節スリングシート
- 体幹サポートインナーパッド、および座面前方ウェッジによるサポート調整
- スリング後方のテンションベルトによりサポートパッドの支持力がアップ

●無段階ティルティング機構

●座面奥行き・フットレスト高さ調整式

●シートユニット
- 背シートには身体の近くからベルトを取り出せる体幹ベルト用のWファスナーを装備
- 全体にメッシュ生地を採用し、さらに背シートクッション材にも通気性と圧分散に優れた立体編物フュージョン(10mm)を採用
- 座面にもフュージョン10mmを使用して背シート同様の効果と丸洗いが可能
- トランクサポートベルトによって身体近位からのサポートで保持力アップ！

●押し手高さ調節式

目　次

- 安全にお使いいただくために……P1・2
- 各部の名称……P3
- 製品構成……P3
- オプション部品……P3
- 使用前点検……P3
- 各部の取扱い……P4・5・6
- 開き防止ベルトの取扱い……P7
- 開き防止ベルトの使用方法……P8
- 前後足連結バー……P9
- 調節スリングシート……P9
- 体幹サポートインナーパッドの取扱い…P10
- 折りたたみ方・開き方……P11・12
- 車いすの取扱……P13
- 仕様……P14
- お手入れ・メンテナンス……P14

安全にお使いいただくために

本書記載事項以外の使用はしないでください。

⃠ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

⃠ 本人を乗せたまま放置しないでください。

⃠ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。

⃠ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。

⃠ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。

⃠ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）

⃠ 子供に操作させないでください。

⃠ 坂道での駐車はしないでください。
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）

⃠ 座席や背もたれ、足台等に立たせないでください。

⃠ 本人を座らせたままで、本体を抱えて移動しないでください。　持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。

❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や販売店にご相談ください。）

❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。

⃠ 火気に近づけないでください。　シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。

⃠ 自動車の中では使用しないでください。車内で、バギーにかかる様々な動き、負荷は予測ができないため、フレームの強度、安全面については保証いたしかねます。

❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。

⃠ 改造や分解はしないでください。

●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- 医師の処方で製作された場合
  - 本人以外での使用はしないでください。
    （個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - 処方目的以外での使用はしないでください。
- 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。
- エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作をおこなってください。
- 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。（開き防止ベルトについては7ページを、持ち運びについては8ページを参照してください。）
- 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- 折たたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。（後方に倒れることがあります。）
- 子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- 子供の遊び道具として使用しないでください。
- 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないで下さい。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- 定期的に処方医・取扱い業者のチェックを受けてください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取扱い業者の調整を受けてください。
- 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱い、落としたり、たたいたりなど強いカや衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- 水中での使用は絶対にしないでください。
- 荷物等の運搬に使用しないでください。
- 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）販売業者にご相談ください。

各部の名称

製品構成

		個　数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート（背・座）		1
体幹サポート インナーパッド	体幹	左右1対
	骨盤	左右1対
座面前方ウェッジ		1
レッグレスト		1
●シートユニット	背シート	1
	座シート	1
	スカートガード	左右1対
	ヘッドレスト	1
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1

※トランクサポートベルト類は選択方式です。

オプション部品

●日除け
●キャリパーブレーキ
●転倒防止装置
●アームレスト金具
●テーブル
●RVバスケット

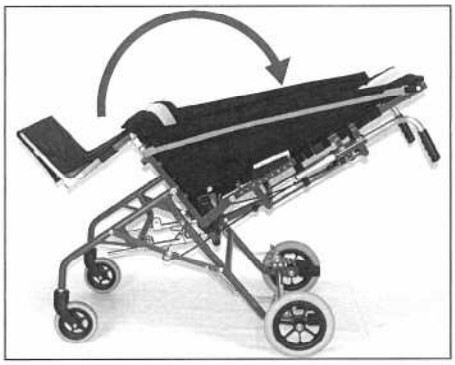
使用前点検

◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
◎折りたたんだ状態から、正しく拡げられていることを確認してください。
◎リクライニング機構がスムーズに作動することを確認してください。
◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取扱い

●ティルト式リクライニングレバー

ティルト式リクライニング(ティルト)
ヘッドレストから足台までが一体となって背座面角度一定のまま、リクライニングします。



- リクライニング角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなって下さい。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- リクライニングレバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズに出来なくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなって下さい。
- お子様には絶対に操作させないでください。

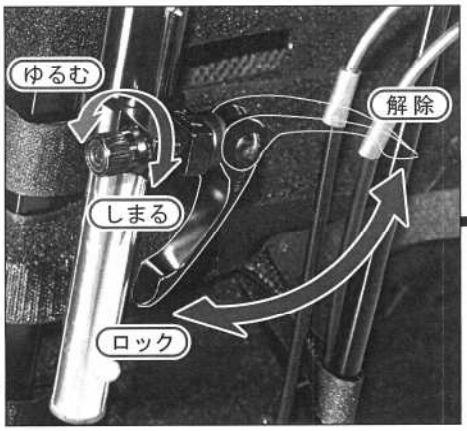
●押し手高さ調節

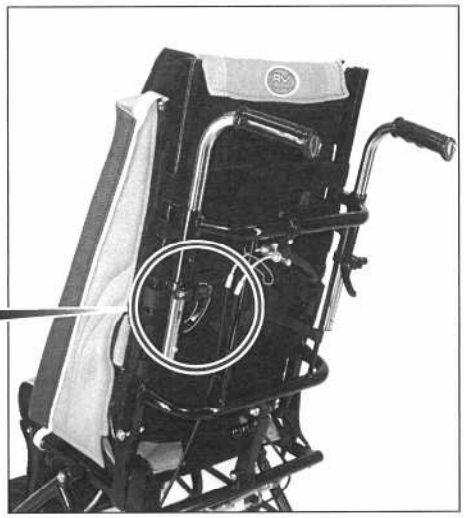
ワンタッチでロックと解除の操作がおこなえる「クイックレバー方式」により、押し手の高さと方向を無段階で調節、設定ができます。

クイックレバー

・レバーを水平に開くと解除、90度に曲げ込むとロックします。
※使用前にはロックが十分に効いていることを確認してください。

・押し手の固定が弱く感じられたときは、クイックレバーの調整が必要です。
① 調整するときはまずレバーを開き解除して、反対側のツマミを1/6回転ほど締めこむ。
② 次にレバーをロックして、押し手の固定力を確認してください。固定力が弱いようであれば固定力が得られるまで、①②の手順を繰り返してください。
レバーだけをぐるぐると締めこんでも、押し手を固定することは出来ません。



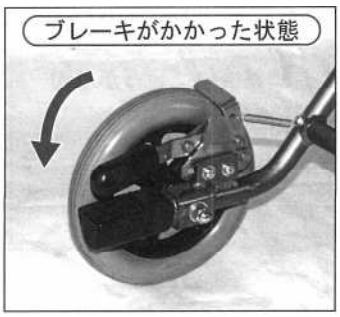


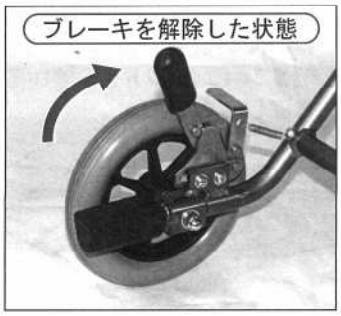
- 押し手グリップの固定にはクイックレバーを使用しております。クイックレバーは、開閉操作のワンタッチで強力な固定力を得られますが、一方で締め過ぎによって不具合が生じる場合もあります。正しい調整をおこなってください。
- レバーは下側に向けてロックしてください。後方に向けてロックすると突き出たようになり危険です。

●ブレーキ

停車するとき、乗り降りのときに使用してください。
ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。
そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です、すみやかに販売店にご相談ください。

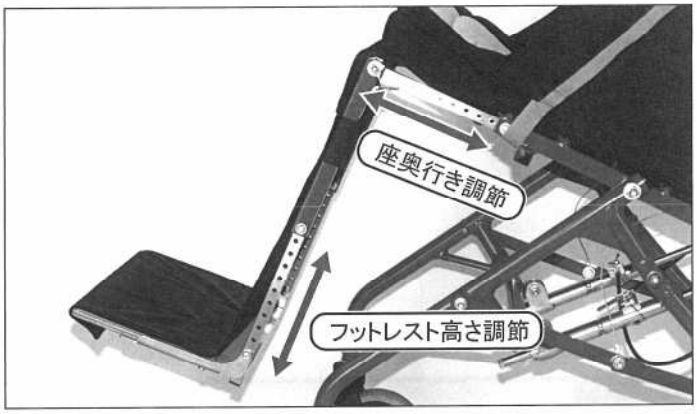




各部の取扱い

●座奥行き調節とフットレストの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットレストの高さ調節ができます。
ボルト・ナットにより設定されています。
座奥行き調節は20㎜間隔で、フットレストの高さ調節は10㎜間隔で調節できます。(Sサイズのフットレストは20㎜間隔)

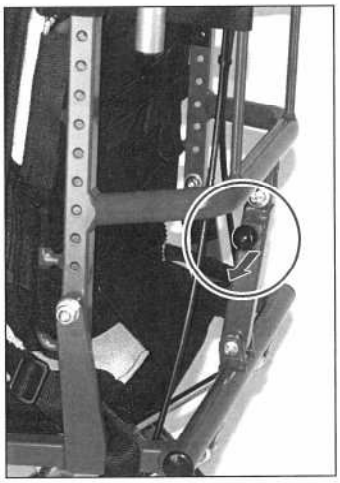


●背折りたたみロック解除

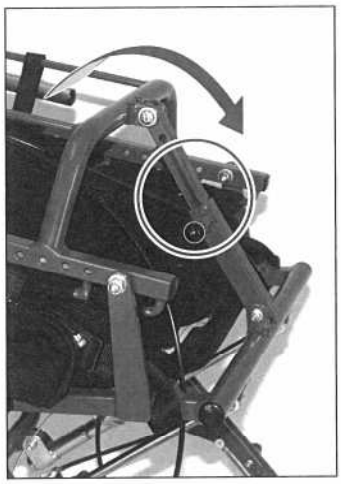
背フレームを折りたたむ際に操作します。背フレーム後面にある解除ノブを引くと、ロックが解除されて背フレームが折りたたみます。背フレームを開くだけで、自動的にロックされますが、使用前にはロックがかかっていることを確認してください。また、このロック解除部は背座両面角、角度の設定部品をかねています。部品交換により、背座両面角度の変更(注)もおこなえます。

・背もたれ開閉時(折りたたみ・拡げ時)に手や指をはさまないよう、持つ位置に注意して開閉をおこなってください。

(注)購入後に両面角を変更した場合、スカートガードの一部にたわみが生じます。不具合がみられるときは取扱店にご相談ください。



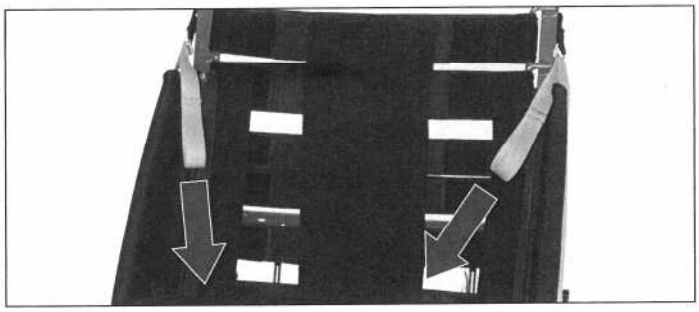
折りたたみ時(ロック解除)



開く時(自動ロック)

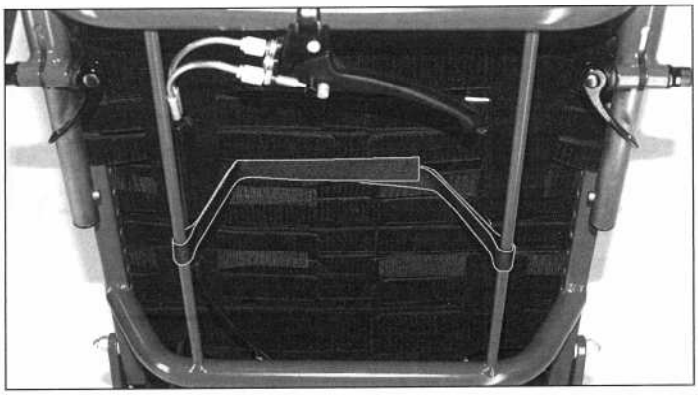
●スカートガード張り調整

スカートガードのたわみが目立ってきたときに張り加減を調整できます。
スカートガード上方の引きしろ(ループ)をもって、スカートガードのバイアスラインに沿って引き直してください。
※ループは背シートとスリングシートの間に差し込んでいます。調節時に出し入れしてください。



●背スリングシートのテンションベルトについて

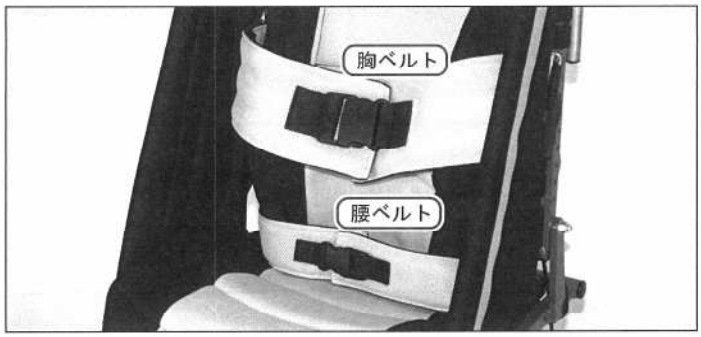
RV－Ⅱでは、背スリングシートの余分なたわみを減少させサポートインナーパッドの支持力を向上させる目的で、背スリングシートを後方に引っ張るテンションベルトを装備しています。背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションベルトを一度ゆるめて、調整後にはしっかり引き直してください。



各部の取扱い

●胸･腰ベルトのバックルについて

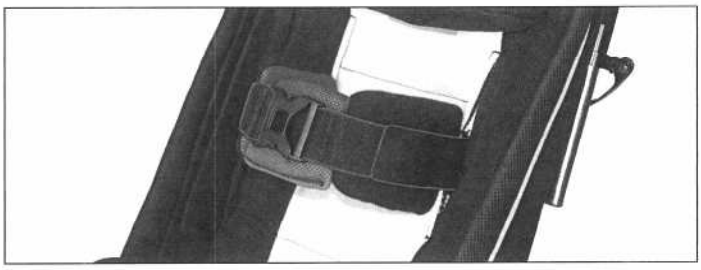
処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
ベルト類はバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。
胸ベルトは、取り付け高さと長さ、腰ベルトは長さの調節ができます。



ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあります。
常に安全ベルトを装着することをおすすめします。

●トランクサポートベルト

身体により近い背シートのダブルファスナーから取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールドカを得ることができます。
長さと取付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)
取付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかりとじてください。
正面のバックルをカチッと奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。



●キャリパーブレーキ（オプション）

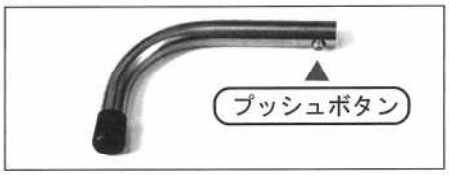
走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。
ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。

・キャリパーブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。

●転倒防止装置（オプション）

使用されている環境条件(坂道や傾斜があるなど)や、またはティルトしたときの後方安定性に不安定な様子がみられたときは、転倒防止装置の取付けをおすすめします。

(取付け方法)
ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。
プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。
取り付けた後は、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



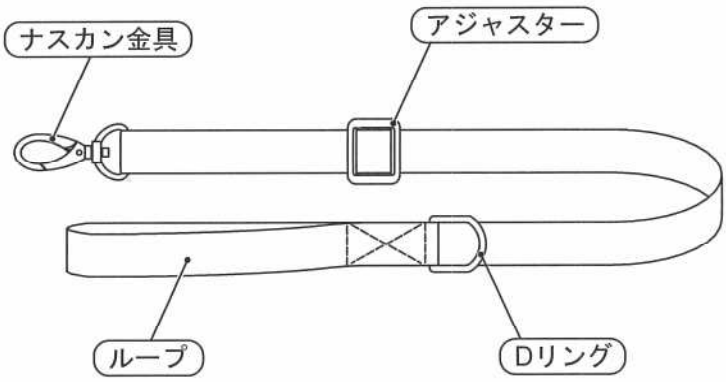
転倒防止装置

・転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。
段差を越えるときは、段差の少ないところを探すか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
転倒防止装置と地面の間で足などを挟まないよう注意してください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

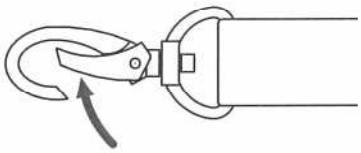
● 開き防止ベルトはバギーを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

■ 開き防止ベルト・各部の名称

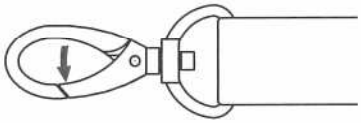


- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、ナスカン金具をDリングにかけて使用します。
- ナスカン金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。

■ ナスカン金具の取扱い



- 開閉部は指で押すと開きます。

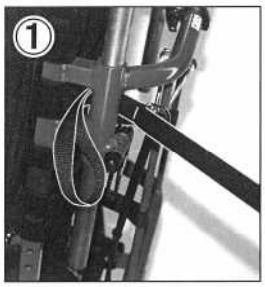


- ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

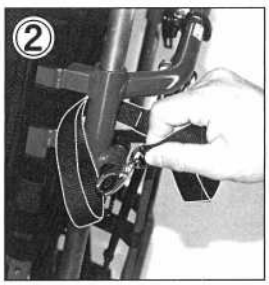
ナスカン金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。

■ バギー本体への取付け方法

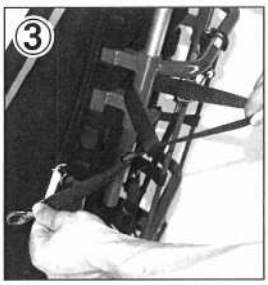
開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取付けます。(出荷時は左側に取付けています)
取付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。
バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



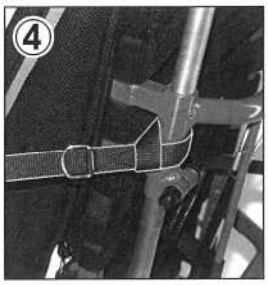
Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



ループにナスカン金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。

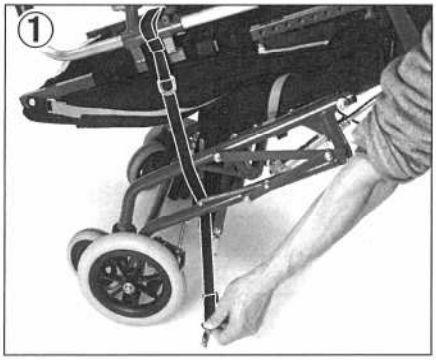


ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。

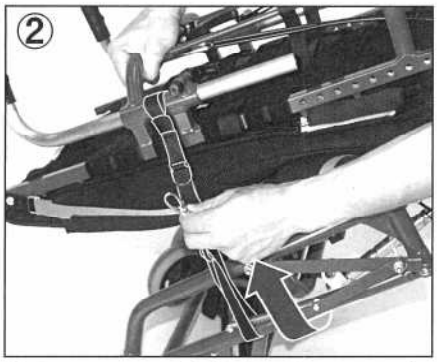
通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにナスカン金具をDリングにかけてください。

- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないナスカン金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

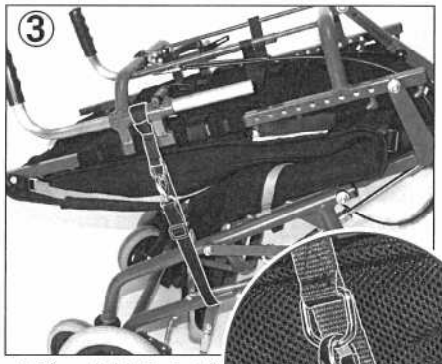
開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



後足フレームを巻くようにして折り返し、ナスカン金具を操作してDリングにかけてください。



バギーを持ち上げる前にナスカン金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。

- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、ナスカン金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、ナスカン金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびナスカン金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

■車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Ⓐのように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。

図ⒷⒸのように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。

Ⓐ

○後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

Ⓑ

× 背パイプのみを持っている。

Ⓒ

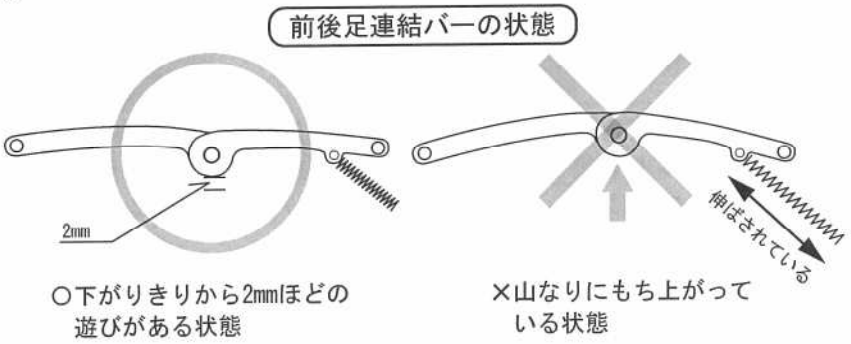
× 前足フレームのみを持っている。

前後足連結バー引っぱりバネについて

本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。

このバネは、安全のために重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう、十分に注意して組み立てておりますが、使用期間中のバネそのものの変化や何かに引っかけてしまったなどにより、バネが伸びきっていたり、外れたり、または折れたりすることが考えられます。

使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取扱店にご連絡ください。



○下がりきりから2mmほどの遊びがある状態

×山なりにもち上がっている状態

以下の5点について、点検してください。

□前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がりきっているか？

(前後足連結バーがしっかりとつっぱた状態になっていることを必ず確認してください。
《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》
中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。)

□バネは2本とも、きちんとついているか？

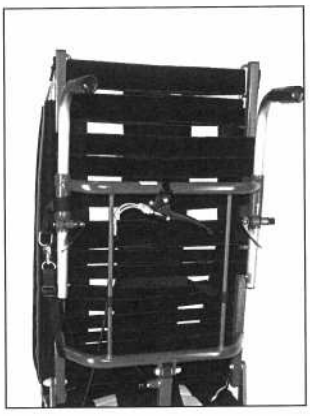
□バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか？

□バネが部分的に伸びきっていないか？

□前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方向にしっかり引っぱっているか？

❗ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

調節スリングシートについて



帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。

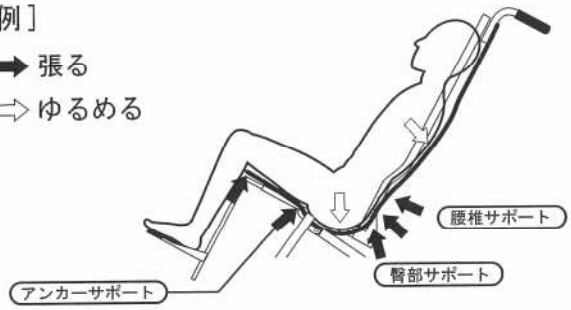
矢状面に加え、水平面の調整もすることが可能です。

RV-Ⅱでは、よりこまかく調整がおこなえるようスリングベルトの幅の見直しと、背スリングを２分割しています。

[調整例]

➡ 張る

⇨ ゆるめる



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部)、②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにし、坐骨前方から大腿部はしっかりと張って臀部を安定させ、前すべりを起きにくくするのが一般です。

❗ 長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

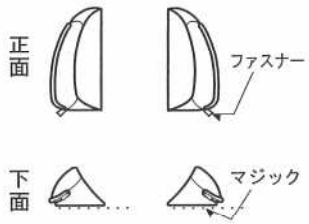
体幹サポートインナーパッドの取扱いについて

調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部を背もたれに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取付けて、その上から背シートを取りつけて使用します。

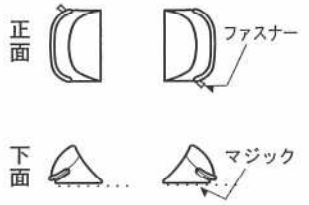
体幹パッド（2個）

・左、右別
・ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
・マジック面がスリングシート側です。



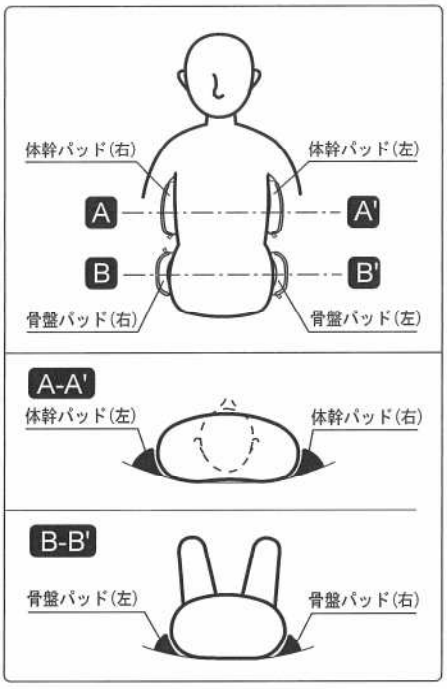
骨盤パッド（2個）

・左、右共通
・ファスナーがついている方が外側です。
・マジック面がスリングシート側です。



① 調節スリングシートの張り調節を先に行ないます。

② 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取りつけます。



[体幹パッド]

○側弯などの影響で一方向に体が傾く場合などには、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。

○ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

[骨盤パッド]

○骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

③ 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

○パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

折りたたみ方

・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作を行ってください。
・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないで下さい。
・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

1

フットブレーキ(左・右)をかけてください。

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!
手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなります。

2

足台をたたんでください。

3

ティルトレバーを握り、止まるところまでティルトを起こしてください。

手ばさみ注意!

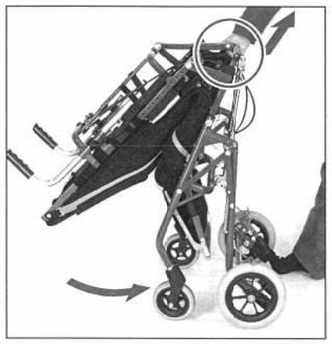
・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、ナスカン金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
・開き防止ベルトの取り扱いについては、7ページを参照してください。

4

背折りたたみロックを解除して、背もたれをたたんでください。

手ばさみ注意!

5



座面後部の丸パイプを持って斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。
下フレーム(前足)が後方にたたまれます。

手ばさみ注意!

6

背フレームについている、折りたたみ開き防止ベルトで背・後足を固定してください。

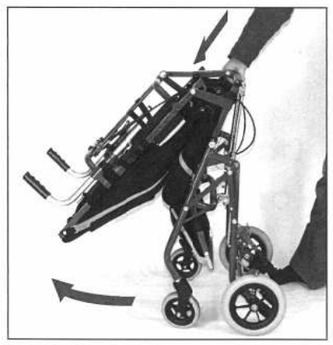
開き方

1

開き防止ベルトを外してください。

必ず手順に従って開き操作をおこなってください!
手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2



前足と後ろ足を開いてください。

手ばさみ注意!

3

手ばさみ注意!

背もたれを開いてください。
背折りたたみロックが「カチッ」と音がして自動的にロックされます。

・使用前にはロックがかかっていることを確認してください。
・3の手順において、ティルトレバーは決して握らないでください。部品がフレームにぶつかって開かなくなることがあります。

4

ティルトレバーを握り、背座フレームを倒してください。

5

足台を開いてください。

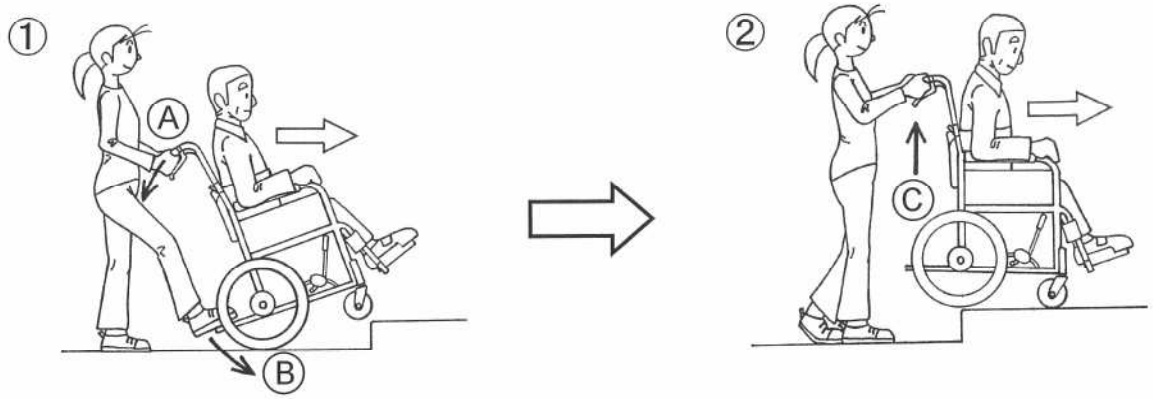
手ばさみ注意!

6

開き防止ベルトがぶつからないようにDリングにかけてください。
ティルトリクライニングを適切な角度に調節してご使用下さい。また、乗り降りの際は、ブレーキをかけてください。

車いすの取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

A. 両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・

B. ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

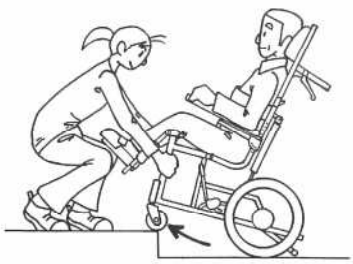
C. 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。

> ⓘ 絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください！
> （前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。）

⃠ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！

ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車いすが破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。

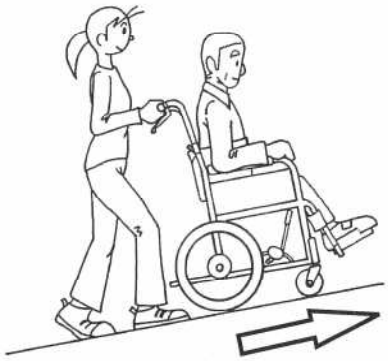
後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

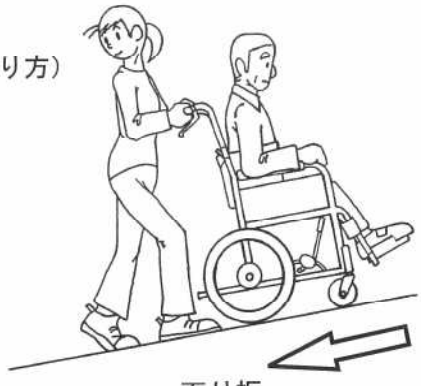
●坂道での操作について

（登り方）



登り坂

（下り方）



下り坂

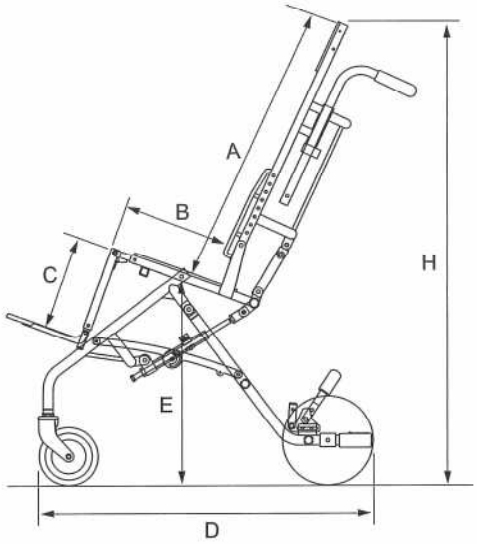
坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなって下さい。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。

> ⓘ 押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

仕　様

※標準重量＝標準的なシートユニットを取り付けた場合の重量

		S	M	L
背 座 幅	mm	335	360	385
背 高 さ (A)	mm	580	630	700
座奥行き (B)	mm	200～245	230～305	280～385
足台高さ (C)	mm	130～265	220～340	230～365
車体寸法(W×D×H)	mm	510×740×990	535×740×1030	560×780×1100
支 点 高 (E)	mm	465	465	485
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	510×750×360	535×760×360	560×790×370
ティルト角度	度	90°～40°		
標準重量(シート重量含む)	kg	11.8	13	13.9
調節スリングシート	材質	ナイロン100%		
シートユニット	材質	ポリエステル100%		
対応身長	cm	約90～110	約110～130	約120～140



お手入れ・メンテナンス

・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。

・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。

・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗って下さい。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。

・インナーパッド、ヘッドレストは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。

・調整や修理などはまずお買い上げのお店にご相談ください。

・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

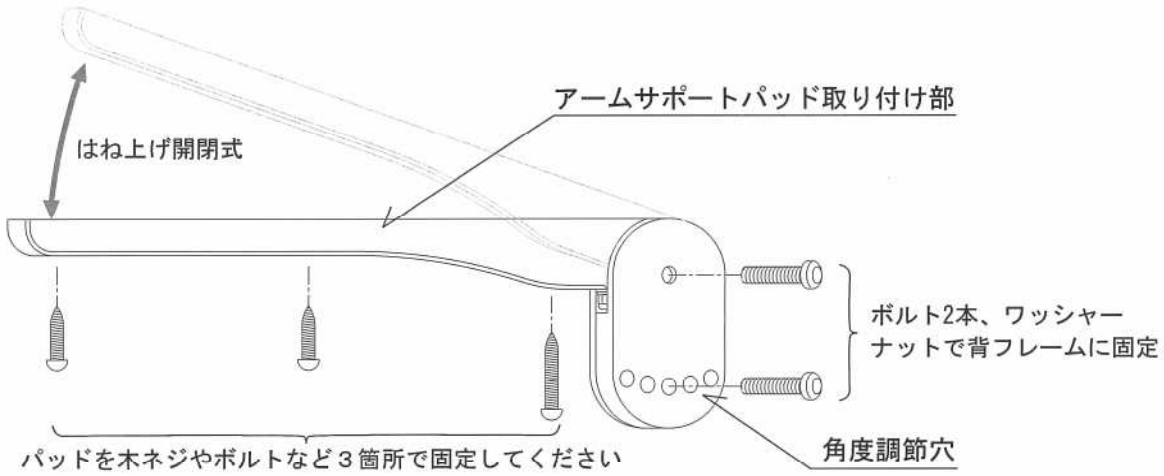
販売業社名・連絡先

2012.5.8

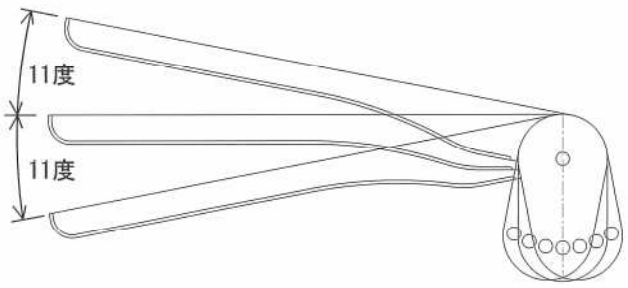
製造・発売元　（株）きさく工房　福岡県粕屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092)932-7600

アームサポート金具の取り扱い

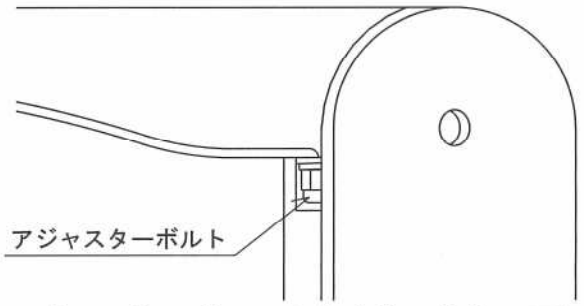
当社製の車いすや座位保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階づつ11度刻みで角度が変更できます。



アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。
※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。

・必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

部品構成